



# 第95回 三十年戦争

## 1 17世紀の危機

- ・16世紀は、ヨーロッパにとって好景気と拡大の時代であった。  
→17世紀に入ると、ヨーロッパは混乱と停滞の時代を迎えることとなった。  
※これは「」と呼ばれている。

- (1) ヨーロッパの気温が下がって、農業生産に深刻な打撃を与えたこと。
- (2) 新大陸（アメリカ）での銀の生産が低下したこと。
- (3) () などの疫病が再び流行したこと。  
→それらが重なった結果、人口が減り、交易も停滞し、社会不安が増大した。  
→各地で革命や反乱が発生し、魔女狩りなども盛んに行われた。  
※なかでも最大の混乱をもたらしたのが、() であった。

## 2 三十年戦争の原因

- ・神聖ローマ帝国では、1555年に結ばれた()以降も、領邦がカトリック（旧教）とプロテスタント（新教）に分かれて争っていた。

- ・1618年、カトリックを信じるハプスブルク家の人物が、プロテスタントの多い()（現在のの一部）の王となった。  
→アウクスブルクの和議に従い、住民はカトリックに改宗する必要があった。  
→しかし新教徒の住民は従わず、逆に神聖ローマ帝国に対して反乱を起こした。



カール5世の甥の子供。翌年には神聖ローマ皇帝フェルディナント2世となった。熱烈なカトリック教徒であった。

フェルディナント



15世紀初めに、この地域で活動していた。この絵は大ヒントでしょう。第65回、第89回のプリントを復習しよう。



王の使者を、プラハ城の窓から投げ落とす市民。ちなみに落とされた3人は、奇跡的に命を取り留めた。

プラハ窓外投擲事件

## 3 三十年戦争の経過

- (1) () を起こしたことをきっかけに、神聖ローマ国内の諸侯が、新教側と皇帝を中心とする旧教側に分かれて戦った。  
→スペインが旧教側で参戦し、皇帝軍を支援した。

- (2) 新教国の()王クリスチャン4世がドイツに侵攻した。  
→神聖ローマ帝国の傭兵隊長()に撃退された。



クリスチャン4世

VS.



傭兵隊長ヴァレンシュタイン

ベーメン出身。神聖ローマ帝国軍の司令官として大活躍したが、だんだん調子に乗るようになった。最後は用済みとなり、暗殺された。



当時の傭兵隊

この戦争では、金で雇われた傭兵が大量に採用された。彼らは戦争のない時には略奪を行ったため、ドイツは荒廃した。マスカット銃をかついでいることに注目。

(3) 新教国の ( ) 王 ( ) は、プロテスタントの保護を口実にして、ドイツに侵攻した。

→スウェーデン軍は快進撃を続けたが、グスタフ=アドルフが戦死した。

(4) 旧教国でありながら、ハプスブルク家との敵対関係からプロテスタントを援助していた ( ) が、ついにドイツに侵攻した。

→戦線は膠着状態となり、決着がつかなくなった。



グスタフ=アドルフ

近代的な軍隊を組織し、スウェーデンを強国にのし上げた。だがその絶頂期に突如この世を去ることになる。近視が命取りとなった。



リュッツェンの戦い

この戦いで、スウェーデン軍は神聖ローマ帝国軍を破ったが、濃い霧のなかで味方とはぐれたグスタフ=アドルフが戦死し、スウェーデン軍は勢いを失っていった。



フランス宰相リシュリュー

フランスのルイ 13 世の宰相を務め、プロテスタント側の黒幕であった。反ハプスブルクを貫きとおした。第 96 回で詳しくやります。

#### 4 ウェストファリア条約の締結

・ ( ) 年、戦争に疲れはてた各国は、和平条約を結んで戦争を終わらせた。

※この和平条約を ( ) という。

- ・ 神聖ローマ帝国内の領邦 (諸侯) は、独立国家と同じ主権を認められた。  
→ ( ) し、ドイツ地域は分裂した。  
→また戦場となって人口が激減したため、ドイツ統一が遅れる原因となった。
- ・ フランスは、( ) 地方の大部分と ( ) の一部を獲得した。  
→以後この両地方をめぐって、フランスとドイツの間で争奪戦が繰り返された。
- ・ スウェーデンは、( ) など、ドイツ北部に領土を獲得した。  
→17 世紀後半から 18 世紀初頭にかけて、「バルト帝国」と呼ばれる繁栄をとげた。
- ・ アウクスブルクの和議が確認され、( ) も認められた。
- ・ ( ) と ( ) は、正式に独立が認められた。

